

牛久市図書館協議会議事概要		日時	令和7年12月23日（火）
件名	令和7年度第1回図書館協議会	場所 時間	牛久市立中央図書館 視聴覚室1 14：00～15：30
作成年月日	令和8年1月5日（月）	作成者	教育委員会中央図書館　：　向井
出席者	（出席委員）佐々江健治、多田智恵子、高木真理子、田中久弥子、遠藤弘太郎、鈴木佳苗、朝田香世、藤倉恵一 （牛久市）川村始子（教育長）、小川茂生（教育部長）、高橋頼輝（次長） （事務局）山越義弘（館長）、五十嵐孝典（副参事）、向井仁美（主任） （傍聴者）0名		
	(順不同・敬称略)		
議事内容	1. 委員長、副委員長の選任について 2. 令和6年度図書館利用状況について 3. 今後の図書館の利用促進について 4. その他		
会　議　内　容　等			
1. 開会 2. 教育長あいさつ 3. 委員自己紹介 4. 職員紹介 5. 議事  ◆議題第1号　委員長、副委員長の選任について 上記内容について、事務局より資料に基づき内容説明を行った。 司　　会：委員の皆様からご提案はございますか。 委　　員：事務局一任。 司　　会：事務局一任という声が上がりましたが、ご意義ございませんでしょうか。 委員一同：異議なし。 司　　会：それでは、事務局からの案はありますか。 事 務 局：委員長に佐々江健治委員を、副委員長に田中久弥子委員を提案します。 司　　会：ただいまの事務局案にご異議ございませんでしょうか。 委員一同：異議なし。 司　　会：委員長に佐々江健治委員、副委員長に田中久弥子委員が選出されました。  ◆議題第2号　令和6年度図書館利用状況について 上記内容について事務局より資料に基づき内容説明を行った。 委　　員：年代別貸出状況をみると、70代以上が比較的多くなっているが、最もコアとなる若者の利用は多くない。仕事が忙しいという理由もあるとは思いますが、市や北関東の近隣自治体の情報を集めるなど、牛久の特色を出していければまた変わってくるのではないかと思います。土浦でも水戸でも、例えば昔話や水戸城についてなど、ローカルなものを取材した記事があったりするが、牛久では見つけられなかった。  事 務 局：年代の偏りの原因ははっきりとは掴めていない状況です。未就学児童から小学生くらいまでは親御さんと一緒に来館して借りて行かれることも多い一方、中学生以上になると、行動範囲を自分で決定することも原因の一つではないかと考えています。徒歩や自転車では少し遠い場合もあり			

ますし、20 代以降の方は図書館に来ない方が多いです。委員ご指摘のような郷土資料もなるべく選定するようにはしていますが、なかなか結果には結びついていないのが現状です。

委員：図書館づくりはまちづくりに通ずるものがある。土浦や取手は老朽化がきっかけかもしれないが、再開発で駅前に図書館を持ってきているし、今は本だけでなく、プラスでアートなど違うものと組み合わせる流れがある。そういったところを視察して良いところを取り入れるのもいいのでは。子供たちを見ていても、今はなかなか紙の本を手にとらないようになってきているというのは肌感覚としてある。例えば、読み聞かせ講座を父母向けに開催するなどすれば裾野が広がるのではないかと思う。

委員：以前新聞で金沢にある図書館についての記事があり、そこでは普通に会話してもいい場所があった。他にも、半分カフェのようにするなど、一角だけでも冒険してみるのもいいのではないかと思う。

委員：民間の書店でも、新品の本を読みながら軽食をとれるカフェが併設されていたりする。そんな風に、図書館の本を読みながら飲食できるようになれば集客も増えるのでは。

委員：例えば、講座等で使われていない部屋では声を出してもいいとか、飲食可にするとか、図書館には静寂な印象もあるが、市民が気楽に立ち寄れる図書館にしていくのも手だと思う。

事務局：飲食スペースについては検討しており、今年の夏休み期間中、社会福祉施設に協力を依頼して、週に1度お昼時に2階のホールでパンの販売を行いました。ホールと屋外休憩室は飲食可能なので、そこで食べていただくという試みです。常時販売するまでには至っていませんが、販売によって多少人の流れがあったことは実感しています。そういったものを取り入れていけないか、少しずつ試行錯誤していきたいと考えています。

委員：少し前に別のところで受けた講習で、岡山のボランティア団体の方がおっしゃることには、子供に読み聞かせをして、次に子供が自分で本を手にとる、その間を埋めるための段階がないと読み聞かせだけで終わってしまうと。その団体さんでは、実際に本を手にとってもらえるように、読み聞かせをしながら本を紹介して回っているというお話をされていた。そういった、子ども自身が本に興味を持ってくれるような仕組みを作っていければいいと思った。

委員：図書館の本は市の予算で買うものだから、幼児向けの本であろうと大切に預かってもらわなきゃいけないけれども、小さいお子さんにとっては、なかなか浸透していないんじゃないかと思う。例えば、絵本の半分くらいは1年で廃棄してもいいぐらいの考えで、それは子供たちが本当に自由に手に取って、お母さんと一緒に読む、そんな風にとすると、また違ってくるのではないかと思う。

委員：高校で国語を教えているが、何度でも足を運びたいと思うのは、土浦とつくば、それから荒川区のゆいの森あらかわ。共通してるのは、ちょっとゆっくりできたり、飲食スペースがあったり、本を手にとらなくても、何かちょっと休憩しに行こうかと思えるような場所がある。私のように小さいときから本が好きでも、忙しさもあり、本だけの図書館ではあまり行く気にならなかったりする。私の高校にも司書がいて、前からあった図書館のソファにクッションを置いて、そこなら寝転がってもいいようにしたら、人気スペースになった。道の駅常総にもカフェのある本屋があって人気。また、若者は映像世代。資料 p21 のベストリーダーには間違いなく若者に人気の本が載っており、そういう本をもっと借りてもらえるように、映画とあわせて本を紹介するなど工夫するといいと思う。

事務局：図書館としても、イベントとリンクさせて本を紹介する取組は行っていますが、なかなか実績が上がっていません。資料 p23 以降にイベント等の実績を載せてありますが、イベントに来てくれる人は多くても、その後貸出まで結びついてるのかということ、何とも言えないところがあります。

この後議題第3号の方でもお話させていただきますが、実績の数値で出してしまうと、やはり徐々に減ってきているのかなというところです。大変貴重な意見であり、参考にさせていただきたいと思っております。

委員：学習の観点から、必要なものをどうやって手にとるのかという話をしたい。大学生も、いい資料にあたらなければ学習が進まないということがある。資料の信頼性を考えると本来図書館の資料をあたるのがよいが、学校図書館では所蔵が十分ではない。学校単位での実習もあると思うので、そういったつながりから発展的にやっていけることもあるのではないかな。図書館に行く以外にも、借りること、調べることのきっかけがあるといいなと思う。

事務局：図書館でも、小中学校の学校ネットワークはありまして、おっしゃるように夏休みの課題等にあたって、学校と連携して主要な資料をそろえるということをしていただいております。高校生以降については、今やっと近隣の高校の教諭の方とコンタクトをとり始めて、何かできないか検討を進めているところです。

委員：先ほど意見にもあったが、最近は滞在型図書館が人気。この場所は高校に近く、学生の通り道になっているので、学習室利用だけでなく、広い意味で勉強の場所として図書館を活用できることを広くアピールできると、学校帰りに図書館に寄るという習慣がつくのではないかなと思う。現在図書館の座席については、どれぐらいの数があるのか。

事務局：1階の窓際の一番奥に4人掛けの机が3つあるほか、児童コーナーにもテーブルがあります。もっと小さいお子さんですと、道路寄りに靴を脱いで中で本を読んだりできるスペースがあります。あとは棚横に椅子があり、机の上で本を広げて読むというスペースはあまり多くはありません。

委員：始まる前に館内を拝見して思ったのが、一人一人の方がくつろいで、本を読みながら別の本を探しに行くというのはすごくよく整っているが、高校生や中学生が連立って来たときに、本を読みながら、ちょっとお話ししながら、みたいなことができる場所がなさそうだなという印象を受けた。先ほども話が出ていたが、会議やイベント等で使っていない部屋を開放して、ただし大きい声や他のグループに迷惑をかけるのはやめてね、というルールで以て、談話的なことができる滞在型スペースにする。それから、他の迷惑にならない程度の軽い飲食であれば可能にする。そうすると、学生も図書館に寄りやすくなると思う。私が現在勤めている大学図書館では、あるフロアでは静かに、また別のフロアでは談話や授業に利用するなど、フロアごとに利用方針が異なっている。図書館の外にもくつろぐ場所があるのに、図書館の中でくつろごうと思える、そういう使われ方が今の若い世代に向いているんじゃないかなと思う。

#### ◆議題第3号 今後の図書館の利用促進について

上記内容について事務局より資料に基づき内容説明を行った。

委員：ナクソス・ミュージック・ライブラリーは利用されてるということだが、電子書籍については検討されているか。

事務局：電子図書に関しては、検討したこともありますし、協議会でご意見をいただいたこともあります。ただ、電子書籍の権利は期間制限又は貸出回数制限があり、人気のあるものは期間満了を待たずして権利がなくなってしまう。また、導入にも費用が大分必要になり、資料の金額も紙に比べて安いということがなく、なかなか踏み切れていないのが現状です。

委員：大学生を相手にしている実感として、家庭用の電子書籍が普及してることもあり、中高生からはデジタルデバイスで本を読むことがかなり定着し始めている。私どもも電子書籍を導入していて、権利の問題で躊躇した部分もあったが、導入してみるとかなり好評だった。例えばヤングアダルト層に限定して導入してみるというのも一つの手。また、ものによっては買い切りのものもある

ため、今後導入検討するための指標としても使えるのではと思う。

委員：文庫は文字が細かいのが辛く、コロナ禍から電子書籍を読むようになったが、文字を拡大できるため読みやすい。また、図書館には専門書のようなマニアックな本もあって、学生目線でもありがたいと思う。

委員：子供たちは調べ物をするときにインターネットに頼ってしまって、ネットで検索したときに最初に出てくる内容がAIによって作成されたものだということをわかっていない子もいる。小学校での取組では、学校司書と担任が連携して、そういうところを理解してもらったり、図書の資料よさを伝えたりする時間を設けるようにしている。中学年までは、週に1度、図書館利用の時間を授業時間に位置付けており、読み聞かせと共通のテーマに関する本を事前に集めておいて、学校司書による読み聞かせの後、その中から実際に本を選んでもらう。3年目の取組になるが、最初は決められた枠で選ぶことに抵抗があった子どもたちも、最近は自分が興味のない分野でも楽しい本もあるんだと言ってくれる。子どもたちが自分だけで図書館に行くのが難しかったり、中学生高校生になってくると一時期離れてしまう時間があったりするかもしれないが、図書館のよさを小学校のうちに知ってもらいたい。

#### ◆その他

委員：今回の議題にかかわらず、ご意見やご質問があればお願いします。

委員：利用促進に関して、他の図書館で最近非常に活発になっていることの一つで、図書館を開催場所にしたゲーム会が盛んに行われている。これは学校図書館でも大学図書館でも、公共図書館でも実現しているが、牛久では話題になっていないか。

事務局：ボードゲームとバルーンアートをされている方が先日ご来館されて、何かお手伝いできることはないですかとお話をいただきました。今のところすぐにとというのは難しいですが、お話はお伺いして、他のイベント等との差し替えなどの検討はしているところです。

委員：ゲームイベントが若い世代の図書館利用のきっかけになったという声がよく聞こえてくる。現在私自身がアナログゲームミュージアムという団体で理事をしており、図書館とゲームとの関わりで非常に有名な先生方とのつき合いがあるため、もし何か必要なことがあれば声をかけてほしい。

委員：若者向けの広報として、SNSの工夫など、現在の広報についての所感はどうか。

事務局：今年の4月ごろに栄進高校の図書委員の方POPを作成したということで、それをお借りして展示させていただき、その時の広報としてはホームページやメール、図書館だよりを使用しました。若者世代向けの資料をどう工夫していくかということも含めて今後検討していきたいと考えています。

委員：中学校で、Instagramによる発信を始めてみたら、校内行事がすぐわかると人気がある。今の若い世代はSNSが大好きで、ホームページは見ないがInstagramは見る。公共図書館としては新しい取組かとは思いますが、お金もかからないため広報のひとつの手段としておすすめする。

#### 6. 閉会